

猫又山

北 ア

1994年5月6日～7日

メンバー：L酒井正裕，岩崎正隆，
水野正明

5月6日（雨一時あられ）

南又谷出合から南又谷に沿って車で進む。標高700mの取入口まで車が入れば嬉しいと思っていたが、林道の状況は近年かなり変化しており、悪路ではあるが地図からは想像できないほど奥まで延びていた。結局、林道は標高950m辺りで左は新取入口へ、右は更に奥へ延びていたが、車は新取入口に止めた。

今日も相変わらずの雨に加え、時にはあられも降り出す始末で、今年この山行を象徴しているかのような天候だった。ただ、時折雲の切れ間からかすかに窺い知る猫又谷は広く魅力的だった。

5月7日（快晴）

今日は入山以来初めて天候に恵まれ、稜線まではっきりと見渡せる。昨日はわからなかったが、ここは正面に猫又山を仰ぎ、穂高連峰の岳沢谷を思わせるようなところである。支度をして、先程の分岐まで戻り更に奥に延びる林道を歩く。林道はしばらく高度をあげた後、ほぼ水平に延びている。眼下には砂防ダムが連続しているが、これが途切れる手前辺りから分岐し、一方は南又谷の河原へ、一方は更に左岸台地の奥へ延びている。河原へ続く林道をたどり、最後の堰堤を右から越すと、谷は一面雪で埋まっているのでシールを着けて進む。進むこと僅かで、谷は

再びところどころ水流がでているので左岸沿いに雪を拾って進む。約1時間弱で釜谷出合に着く。

ただ、もし積雪量が少なければ、釜谷出合まではスキーを着けたままで進むことは難しいだろう。この場合、谷沿いに進むとなれば徒渉しなければならず、水流の出る手前で右の斜面を高巻くかどうか判断しなければならないだろう。私たちは辛うじて残る残雪をたどり釜谷出合いに着くことができたが、部分的にスキーをはいたまま藪を漕ぐ場面もあった。

釜谷出合からは、雪で完全に埋まった広大な谷をのんびり登る。ここまでくれば徒渉の心配はない。釜谷出合から約1時間ほどで二俣に着いた。

二俣から見る猫又谷は右俣と左俣に分かれており、左俣は猫又山と釜谷山のコルへ、右俣は猫又山南標高約2200m付近へ突き上げている。どちらも同じような規模の谷であり、山スキーの内容もそれ程変わらないであろうと思われるが、左俣は右俣に比べやや雪崩の危険性が高いと思われる。

右俣は標高約1900m辺りまでは傾斜が緩く、シールを効かせてのんびり登ることができるものの、上部は傾斜も30度以上となりアイゼンを着けて登ったが少々バテ気味になった。

稜線（標高2200m）に出ると、地図上では猫又山まで比較的広いと思われる尾根も意外と痩せ気味なところもあるので、スキーを置いて頂上へ向かう。これから先、尾根を忠実にたどるが、やがて標高2300m辺りで左手に岩を見る地点にでる。ここは、ハイマツを主とするブッシュが南に向かって延びており僅かではあるが藪を漕ぐこととなる。

これが終わると稜線は広くなりやがて頂上に着く。頂上はまさに劔岳の展

望台といえるほど剣岳の眺めがよい。

ここからスキーを置いた地点まで往路を戻ることとなるが、毛勝山周辺でも最も迷いやすいところであるので、慎重に下る。

標高2200mの稜線からはスキーをはき滑降に移るが、滑り出しが急なものの十分な広さがあり、快適なスキー滑降が楽しめる。スキーの上手な水野氏をカメラに収めようとしたが、彼は一気に二俣まで滑ってしまいそれどころではなかった。おそらく二俣まで5分とかからなかっただろう。

二俣からは、更に広がった緩斜面

を自由気儘にゆっくり滑り降りる。スキーの快適さは、本山行の今迄のつきの無さを全て忘れさせるのではないかと思うくらいだった。

しかも、人とは先ず会うことの無い静かなルートであった。

タイム：7日 新取入口(6:10)-釜谷出合(7:00)-二俣(8:20)-稜線(標高約2200m)(10:50~11:15)-猫又山(11:50)-稜線(標高約2200m)(12:15/40)-最終の堰堤(13:20)-新取入口(14:00)

(酒井 正裕 記)

ルート図 猫又山猫又谷

